決算を認定！

定例会の主な内容

第６回（９月）定例会は、９月 12 日から 10 月 15 日までの 34 日間にわたり開催しました。この定例会では、令和５年度沼津市一般会計歳入歳出決算の認定等 31 件、議員提出議案７件を審議し、いずれも原案のとおり議決しました。また、請願２件は採決の結果、いずれも不採択となりました。

ここでは、令和５年度の一般会計、特別会計及び企業会計の審査、歳入・歳出決算額等の主な内容をお知らせします。

特別会計決算

会　　計	歳　　入	歳　　出	差　引　額
国民健康保険事業	204 億 2,300 万円	201 億 4,859 万円	2 億 7,441 万円
土地取得事業	1 億 1,527 万円	1 億 1,527 万円	0 円
介護保険事業	183 億 7,318 万円	180 億 2,273 万円	3 億 5,046 万円
後期高齢者医療事業	29 億 6,339 万円	29 億 5,407 万円	932 万円

企業会計決算

会　　計		収　　入	支　　出	差　引　額
病院事業	収益的収支	110 億 5,958 万円	112 億 1,760 万円	△ 1 億 5,802 万円
	資本的収支	6 億 3,152 万円	10 億 2,279 万円	△ 3 億 9,127 万円
水道事業	収益的収支	28 億 6,737 万円	26 億 3,311 万円	2 億 3,426 万円
	資本的収支	10 億 7,971 万円	26 億 2,970 万円	△ 15 億 4,999 万円
下水道事業	収益的収支	52 億 9,854 万円	48 億 9,467 万円	4 億　388 万円
	資本的収支	31 億 6,948 万円	50 億　643 万円	△ 18 億 3,694 万円

◆収益的収支：事業活動に伴って生じる収入と支出　◆資本的収支：建物や機器などの資産の購入・売却による収入と支出
◆一般会計から病院事業会計へ21億41万3,815円、水道事業会計へ306万2,000円、下水道事業会計へ25億9,258万7,000円繰り入れています。なお、企業会計決算額は、消費税及び地方消費税を含みます。

特別会計企業会計予算決算委員会での主な質疑

問 国民健康保険事業における国民健康保険料の収納率向上のための取組は。

答 口座振込の申込み手続を簡素化するペイジー口座振替受付サービスに加え、令和５年度はウェブ口座振替受付サービスを開始し、口座振替の原則化を推進した。また、現年度分の徴収体制を強化したことが、収納率向上の成果につながった。

問 介護保険事業における要介護等認定者数の状況は。

答 軽度（要支援１及び２並びに要介護１）は 5,177 人で令和４年度と比べ 374 人増、中度（要介護２及び３）は 2,848 人で 91 人減、重度（要介護４及び５）は 1,810 人で 154 人減であった。なお、介護の必要性の高まる 75 歳以上の割合が年々増加しており、今後も要介護等認定者数は緩やかに増加していくと見込まれる。

問 令和５年度の市立病院事業の特徴と決算に対する評価は。

答 市立病院は県東部の基幹病院として急性期医療や専門医療の中核をなしており、三次救急や小児周産期医療、災害に対する医療など民間では運営が困難な医療を担う役割に加え、新型コロナウイルス感染症対応については、平時の医療提供体制へ移行しつつも、必要な診療体制を確保し、最善の医療を滞りなく提供できるよう柔軟に取り組んできた。経営面では、受診控えに加え少子高齢化に伴う疾病構造の変化等により患者数が減少したほか、新型コロナウイルス感染症の５類移行に伴う補助金の減少等による影響を受け、純損失は２億円を計上し、３年ぶりの赤字決算となったが、高度専門医療が必要な患者が多く来院していることから、地域医療支援病院としての役割を果たしていると認識している。

問 水道事業において令和５年度に水道料金を改定した理由と妥当性は。

答 水道料金収入が減少傾向にあり、令和５年度以降赤字経営が見込まれたことなどから料金改定したものである。本決算においては、電気料金の価格高騰に対する国の激変緩和措置等により経費が減少し、純利益を計上できたが、料金回収率は 100% を下回り、営業損失も発生した。早期に本事業の経営基盤の強化を図る上でも適切な時期の改定であると認識している。

問 下水道事業における水洗化率向上のための取組は。

答 工事説明会において事業への理解促進に努めたほか、職員及び水洗化指導員が未接続世帯を訪問し水洗化指導等を行った。接続に当たっては、排水設備工事費用を金融機関から借り入れる際の融資斡旋と、供用開始後３年以内に接続した場合は利子補給を行った。さらに新たに供用開始区域となった世帯への周知を行い、早期接続の促進に努めた。